

# 学生近況報告

## 6年生の近況報告

毛利 康 一 (6年次)

どうもこんにちは、毛利です。毎回同窓会会報誌に好き勝手なことを書き続けて早いもので5年が経ちました。僕がお伝えするのも最後になる今回のテーマは、国家試験に向けての熱い意気込み、ではありません。そういう真面目腐った話をすると息がつまりそうなくらい勉強しているので、御父兄の方々はご安心ください。

まず始めに、今回も締め切りが迫っています。自分の趣味で書いているくせに、毎度毎度締め切りを守らず同窓会事務所の上原さんにはご迷惑をおかけして申し訳ないと思っています。しかし、上原さん！今回だけは理由があるんです。実は今、僕は琉大病院のベッドの上で原稿を書いています。事件は先週末のこと。久しぶりにバスケット部の練習に顔を見せたのはアラサーの僕です。勉強のしすぎで体がなまっていたのと、悲しいかな、老いも原因だったのでしょう。滑って転んで手を床についたら、自分の手首が明後日の方向を向いているではありませんか。ちょうどナポリタンでも食べれそうなくらい、腕の先がフォークの形に変形していました。「これはいかん！これはイヤーノートにも載っている何とか骨折だ！」と、的確な診断をつけた僕は急いで救急外来へ。実際は、そんなふざけたことを考えている余裕も無いほどの痛みなわけで、まずは看護師さんが冷静に「毛利さん、痛み止めの浣腸しましょう」と恐ろしいことを言いました。痛くて肛門括約筋が大活躍する時にそれは無理だと思った僕は一言、「嫌です」と。それでも優しい看護師さんは「手袋して入れるので大丈夫ですよ」と訳の分からない説得をしてきたことが妙に記憶に残っています。

処置を待っている間、迷える子羊のように震えていました。手は痛いし、独りぼっちだし、カーテンの向こうからはヒソヒソ話が聞こえるし。半泣きで待っている僕の手を握って「大丈夫ですよ」と、せめてこの一言が欲しかった。まあ、この後に待っていた、骨折した手首の回復は半泣きどころではすまなかったわけですが。

今回、自分が怪我をしてみて初めて患者さんの大変さが身にしみて分かりました。日常生活も満足に送ることがで

きないし、外来の待ち時間は長いし、手術ともなると不安でしょうがない、術後は激痛で眠れない。将来は、そんな患者さんの気持ちをくみとって、何か一言気遣いの声をかけてあげることができれば、と思いました。手術によって手首に刻まれた5cmの傷を見るたびに、僕はきっと優しくなれるような気がします。今回の骨折はいい医師になるためにバスケの神様が僕に与えた試練なんじゃないかと、いや、バスケと医療は何の関係もないじゃないかと、さて今回のオチはどうしようかと、今はそんなことを考えています。

最後になりましたが、この文章を読んでくださった全ての方々のご活躍とご多幸を心より願っております。後輩のみなさんは、貴重な学生生活を精一杯エンジョイしてください。それにしても、片手だけでキーボードを打つのは本当に骨の折れる作業でした。はい、オチがつきましたね。でも、国家試験本番でオチがついたら、これは笑えませんね。ご機嫌よう。

## ポリクリも折り返しをむかえて

黒崎 滋 之 (5年次)

同窓会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。五年次の黒崎滋之です。

今夏は多くの大型台風が沖縄を直撃しました。そして必ずと言っていいほど、週末に大型台風はやってきました。せっかくの沖縄での夏の休日を、部屋の中で過ごすという虚無感。沖縄の台風、改めて侮るべからず。

さて、四月から始まったポリクリ実習も半年が経ち、折り返し地点を迎えてしまいました。四年次までの教室での座学と異なり、病棟業務や外来診療、検査を見学し（ときにはそれらに携わり）、レポートやプレゼンテーションに励んでいます。五年次用の控え室がないため、臨床講義棟一階のロビーで昼食や休憩をとらなければならないことが当初は不便と感じていましたが、私自身は最近それほどにも不便と感じなくなりました。慣れとは怖いものです。

ポリクリ実習では様々な先生方に出会います。沖縄県出身の先生と県外出身の先生、琉球大学出身の先生と他大学出身の先生、はじめから診療科を決めていた先生と紆余曲折を経た先生などなど。その中でも、自身の専門科や仕事

